

## 教育長定例記者会見 会見録

日時：令和5年12月22日（金）13時30分～

場所：教育委員室

### 発表項目

- ・ 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果概要について
- ・ 令和5年度三重県優秀選手・指導者表彰式を開催します
- ・ 県立夜間中学の校名候補3案を選定しました
- ・ 紀南地域新高等学校の校名候補（3案）が決まりました
- ・ 工業高校生が製作したロボットによる三重県高等学校ロボコン競技大会を開催します

### 質疑事項

- ・ 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果概要について
- ・ 県立夜間中学の校名候補3案を選定しました
- ・ 県指定史跡「神戸の見付」の石垣への落書きについて
- ・ くわな特別支援学校長の発言について
- ・ ドラマ「下剋上球児」放送終了について

### 発表項目

#### ○令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果概要について

全国の小学校5年生と中学校2年生の全員を対象としました、全国体力・運動能力、運動習慣等調査が本年4月から7月の間に実施されました。配付資料の1、「実施状況」にありますように、本県における参加学校数は小学校340校、中学校150校です。2の「結果の概要」ですけれども、体力合計点における三重県と全国平均値との比較では、ほとんど差はございませんでして、小学校男子と女子、中学校女子はやや下回り、中学校男子はやや上回ったということです。また上から5行目以降に書いてありますように、体育の授業以外1週間の総運動時間が420分以上の児童生徒の割合がコロナ以前の水準に戻っていないということ、朝食を毎日食べる人の割合は減少傾向が続いていること等がわかりました。全体としましては、新型コロナの影響による行動制限が緩和されたことで、全国的には令和4年度との比較で若干の回復傾向がみられますが、全国、三重県ともコロナ以前の水準までは戻っていないため、引き続き、取組の強化が必要と考えられるところです。次のページを見ていただきますと、3、「体力テスト種目別及び体力合計点の結果」ですけれども、この表で黄色く着色している項目が、三重県が全国より上回っている項目です。白の上向き矢印、黒の下向き矢印は昨年度と比べて良くなったか、悪くなったかを表しています。小学校5年生の状況ですけれども、16種目中8種目が全国を上回っています。また昨年度より良くなった種目が16種目中10種目となっていることがわかると思います。次のページですけれども、中

学校2年生の状況ですが、黄色くなっているところは18種目中5種目ということで、この5種目が全国を上回っています。また昨年度との比較ですけれども、良くなった種目は2種目だけで、ほとんどの種目が悪化しています。次に4ページをご覧ください。平成20年度以降の体力合計点の経年変化ですけれども、これをみると、小学校男子では回復傾向もみられていますけれども、コロナ前の令和元年度の水準には戻っていないことがよくわかっていただけるかと思います。以下のページは、ここでは説明を省略させていただきます。資料の方をご覧くださいいただければと思います。

### ○令和5年度三重県優秀選手・指導者表彰式を開催します

学校スポーツで優秀な成績を収めた生徒、指導者、学校を表彰する令和5年度三重県優秀選手・指導者表彰式を、新年の1月4日の14時から県庁講堂において開催いたします。配付資料の3、「概要」の「(2) 表彰事項」のところにありますように、表彰されるのは、団体とか全国障害者スポーツ大会、インターハイ等の全国大会におきまして、個人1位から3位、1団体1位から4位の成績を収めた生徒、指導者等です。特に複数の大会で優勝を収めた生徒や同一大会の個人、団体に優勝を収めた生徒は、特別優秀選手賞としての表彰になります。被表彰者数ですけれども、資料の4の(2)にありますように、団体19校、選手146名、指導者33名、合わせてのべ198名になります。この198という数字は、資料の確認ができる平成14年度以降で、これまでで最多です。これまででは、平成27年度の174が最大だったのですが、これを24名も上回る過去最多になりました。

### ○県立夜間中学の校名候補3案を選定しました

このたび、県教育委員会事務局で県立夜間中学の校名候補3案を選定いたしました。配付資料にありますように、1「まなみえ中学校」、2「みえ明日葉(あしたば)中学校」、3「みえ四葉ヶ咲(よつばがさき)中学校」の3案になります。それでは、この3案が候補となりました経緯について簡単に申し上げます。まず、前提として、校名選定にあたり大切にしたい思いにつきましては、「県立夜間中学の基本構想案を踏まえたものであること」、「生徒や教師にとって誇りと希望を持てるものであること」、「地域の人から親しまれ愛されるものであること」であります。そして、校名を公募しまして、347件、312種類の応募をいただきました。この応募のあった校名から、夜間中学設置検討委員会の意見を踏まえまして、教育委員会事務局で10案を選定いたしました。この10案について、公立中学校の生徒と教職員、県立みえ夢学園高校の生徒と教職員、みえ夜間学級体験教室まなみえの参加者と指導者、そして夜間中学設置検討委員会の委員、これらの方々を対象に投票を実施しました。この投票の結果が別紙につけさせていただいたとおりでございまして、これを踏まえて校名候補3案を選定いたしました。この3案を選定した理由ですけれども、「まなみえ」というのは、夜間学級体験教室参加者、指導者と教職員等、大人の投票数が多いということ。「みえ四葉ヶ咲」は公立中学校や県立みえ夢学園の生徒など、子どもの投票数が多いこと。「みえ明日

葉」はどのカテゴリーにおいても投票数が多いこと、これが選定した理由です。今後、県教育委員会定例会にて1案を選定しまして、その後、県議会の議決を経て、年度内を目途に校名を決定・公表する予定です。

### ○紀南地域新高等学校の校名候補（3案）が決まりました

県立木本高等学校と県立紀南高等学校を統合し、令和7年4月に開校する新しい高校につきまして、第3回校名選定委員会において校名候補3案が選定されました。配付資料にありますように、1「熊野高等学校」、2「熊野青藍高等学校」、3「七里御浜高等学校」の3案になります。この3案が候補となりました経緯について、簡単に申し上げます。まず前提として、校名選定にあたり、大切にしたい思いにつきましては、配付資料1の最後3行をみていただきますとわかりますように、これからの子どもたちにも地域の方にも長く親しまれ、多くの人が学校とのつながりを感じ、子どもたちが未来への夢を抱くことができるよう、「生徒が誇りを持つことができる校名」の視点を大切に選定したということになります。まずは校名を募集しまして、728件、362種類の応募をいただきました。この応募のあった校名から校名選定委員会で11案に絞り込みました。そしてこの11案について、先般、児童生徒による投票を実施しました。この児童生徒による投票の結果が別紙のとおりです。その後、第3回校名選定委員会におきまして、この児童生徒の投票結果を踏まえて、協議が行われまして、校名候補3案が選定されました。選定された3案が児童生徒の投票結果とぴったり一致していないかと思えますけれども、これは校名選定委員会の委員も投票を行って協議を進めたためだと聞いています。今後、県教育委員会定例会にて1案を選定し、その後、県議会の議決を経て、年度内を目途に校名を決定・公表する予定でございます。

### ○工業高校生が製作したロボットによる三重県高等学校ロボコン競技大会を開催します

県内の工業学科設置校8校の生徒が製作したロボットによる三重県高等学校ロボコン競技大会を開催し、ロボット相撲とロボット障害物競争の2種目を実施します。このうち、ロボット障害物競争は今回から初めて実施する三重県独自の競技になります。この競技大会は、実践的なロボット製作の過程をとおしまして、プログラミングやロボット制御に関する知識・技術を習得する目的で実施しているものでありまして、新年の1月20日土曜日にイオンモール明和にての開催です。ロボット相撲の500g級というのは、縦10cm、横10cm以内、高さ自由で、重さ500g以下のロボット同士が直径77cmの土俵において相撲を行う競技です。プログラミングで自動制御する「自立型」と人がコントローラーで操作する「ラジコン型」の2部門で試合が行われます。参加予定台数は自立型16台、ラジコン型26台です。新競技になりますロボット障害物競争とは、縦10cm、横10cm以内の大きさのロボットが制限時間3分以内に障害物を避けながら順番を指定された3つのゲートを通過し、ボトル2本を倒した後、最後に1辺が5cmの立方体の物体をゴールに運び込む競技です。参加台数は16台でございます。競技のイメージを持っていただくために、画像で説明させてい

たきますのでご覧ください。

(高校教育課)

まずロボット相撲の 500 g 級です。これが自動制御で動いているロボットになります。次に、これが新競技のロボット障害物競走で、今試作段階で動いているロボットですので、途中、失敗する場合がありますが、ゲートを 3 つくぐりまして、2 本のボトルを倒すと。プログラムがうまくいってないので 1 本しか倒れていませんけれども、こういうふうになります。

### 発表項目に関する質疑

#### ○令和 5 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果概要について

(質) 結果の概要につきまして、引き続き、取組の強化が必要だとあるのですが、具体的に何をやろうという話はあったりするのでしょうか。

(答) 子どもの総運動時間が減り続けているというところがありますので、しっかり子どもの総運動時間が増加するように取り組んでいくことが体力向上につながると思っています。この体力テストを実施したのが 4 月から 7 月となっていますけれども、実際は暑くなる前にやる学校が多く、4 月や 5 月に実施するところが多いですので、コロナがまだ 5 類になっていないか、やっと 5 類になった頃に実施していて、実際、コロナ禍の中で行われた感じの体力テストですので、その後、アフターコロナの状況になっていますので、しっかりと運動が行われるように取り組んでいきたい。体育の授業を工夫・改善していくとか、三重県では 1 学校 1 運動の取組というのをやっていますので、それが若干コロナ禍の中で、実施率が下がってきていますので、それをしっかりと 100% につなげていって、その 1 学校 1 運動の質も上げていくというようなことも考えています。あと、今年からトップアスリートを体育の授業に派遣するという事業も取り組んでいまして、こういった形で子どもが体育や運動を好きになるように働きかけていきたいと考えています。

(質) 全国、三重県ともにコロナ以前の水準まで戻っていないということで、その要因として考えられることはコロナ禍の状態です。測定されたものであるからといった理解でよろしいですか。

(答) やはり、コロナによって運動の機会が減っているというのが一番大きいと思います。それが運動の時間の減少にもつながっていると思います。それと連動していると思うのですが、スクリーンタイム、要はゲームをしたりしている時間が非常に増加しています。それが運動の時間と反比例しているところがあるのかなと思っています。これは全国学力・学習状況調査でも、そういう似たような現象があって、学習時間とか読書時間が減り続けていて、その辺りをどう改善していくのか、これから我々の大きな課題だと思っています。家庭での学習習慣、読書習慣、運動習慣をどう確保していくのかというのが、これからの大きなテーマになってくると思います。

(質) 全国の体力合計点との差はほぼ見られないという状況ですけれども、今の状況というのは、やはり改善していかななくてはいけないということなのでしょうか。

(答) そうですね。特に今思っているのは、中学校の結果を見ていただくと分かりますけれども、去年と比べてほとんど下がっているのです。経年の表も見ていただくとわかりますが、中学校はかなり低下していて、回復の傾向もまだ現れてない状況ですので、我々としては危機感を持っています。しっかりと取り組んでいく必要があると思います。

### ○県立夜間中学の校名候補3案を選定しました

(質) 夜間中学の3案、校名3案の教育長ご自身の感想、受け止めと、あとは、最終的にどの案がよろしいですかという質問を一応しておきますが、その上で、どういった校名になればいいかなと思っていると。お願いします。

(答) 夜間中学の校名は、皆さんも同じように感じられたと思いますけれども、11案が出揃った段階で、どの案も素晴らしい案だなと感じていて、地域に親しまれるとか、誇りや希望が持てる校名ということで、どれも一定該当していると思っていまして、当然選ばれた3案につきましても、どれも甲乙つけがたいものだなと思っていまして。これを1案に絞り込むのはなかなか、ある意味大変だなとは思っていまして、ここでどれがいいというのも、これから1ヶ月ぐらい審議までに間がありますので、しっかり考えたいと思います。

(質) 1案に絞り込む上では基本構想の話とかもありますけれども、どういう観点で選んでいきたいとお考えでしょうか。

(答) これも大切にしたいというの、これは紀南の新高校もそうですけれども、大切にしたい思いが一定ありますので、それに基づくこと。それから、もう一つ重要なのは、この投票の結果というのは一定踏まえる必要があるかなと思っていまして、全く無視はできませんので、それもしっかりみさせていただいて、あとは、どの校名が自分の感性に共感するのかというところも、重要になってきますので、教育委員でそれぞれが違うかもしれませんので、全員が同じ校名にならない可能性もありますので、そういった場合は、全会一致ということにはならないと思っていまして。

(質) そうするとつまり、教育委員会で例えば定例会のような場で、何かこう、無記名投票というような形のことをまたする感じでしょうか。

(答) いや、当然普通の審議、話し合いを行って、その中で決めていくことになるかと思っています。その場合、最後に意見が合わなければ、採決みたいな話になるかもしれません。

### その他の項目に関する質疑

#### ○県指定史跡「神戸の見付」の石垣への落書きについて

(質) 鈴鹿の県重要文化財に落書きをされたという事案があつて、石垣だけになかなか消す

のは難しいという話もありますが、今後の再発防止等も含めてどのようにされる方針なのか。

(答) 再発防止というのはもう呼びかけていくしかないですよ。おっしゃるように、非常に現状復帰が難しいものだと聞いておりますので、それに向けては、しっかりと呼びかけていくしかないのかなと。

(質) いわゆる、現状回復というのはちょっと難しいのですかね。

(答) 石垣まで入り込んでいたりするので、なかなかその辺の、ぬぐい去るのが難しいみたいなことも聞きますけども。

(答 社会教育・文化財保護課) 神戸の見付につきましては、鈴鹿市所有のものでございます。鈴鹿市の方がどのように対応するのかという辺りは、私たち県も連携しながら話をしていくわけなのですけれども、まず薬品等で黒色スプレーの方を落としていきながら、それから今後どのように再発防止を行っていくのかという辺りを確認してまいります。それから、鈴鹿市は警察の方にもうすでに連絡しておりまして、被害の届けを出すという法的な形でも、対応してもらおうということで報告を受けております。

(質) 薬品で落ちるのですか。

(答 社会教育・文化財保護課) 基本的には、有機溶剤でああいったものは取るという形になっております。

(質) 復旧すると思えばいいのですか。跡は残らない。

(答 社会教育・文化財保護課) どこまで取りきれるかというところはあるのですけれども、なるべく取るという形です。石材を叩いてその部分を外すというわけではなくて、薬品の部分だけ外すというのがやはり史跡の保護としては必要と思います。

(質) 前回の部分はどうなったのですか。

(答 社会教育・文化財保護課) かつて数字が書かれました鈴鹿市のごみ処理業者がつけた分は、ほとんどわからないように取れています。それから11月の終わりにあった、1回目の落書きと、この2回目の落書きが重なっているところがあるのですけれども、うまく取りきれなかった部分があることや、薬品が手に入りにくいということで、今手配をしているということは報告を受けております。

(質) 毀損届はもう出ていますか。

(答 社会教育・文化財保護課) 出ております。

#### 〇くわな特別支援学校長の発言について

(質) 20日のくわな特別支援学校の校長の発言の問題に絡んで、20日に「障害者差別のない三重県をつくる会」から要望書が提出されたと思いますけれども、まずこれに対する受け止めと、どのようにそれに答えていくのか、今後の対応を教えてください。

(答) まずは、このようなご要望をいただいたことに関しては重く受け止めています。今回の私どもの事案というのが、多くの方の心情を傷つけて、人権を軽視するという一方で、

多くの方のご心配をいただいたということをお伺いしておりますので、しっかりと受け止めなければいけないと思っています。対応ですけれども、12月14日の教育警察常任委員会の冒頭で、時間をいただきまして、お詫びをさせていただきまして、今後の方針も伝えさせていただきました。その中で、再発防止に向けて、まずは各学校に通知をしたということと、それから今年度中に県立学校全職員が動画による人権の研修を受けるということも義務づけるとお話をさせていただきました。来年度以降、人権研修を強化していくことも検討しているということで、この間要望いただいた教員の研修という部分は、そういった形で対応していきたいと思っています。あとお詫びという話がありましたけれども、基本的には常任委員会でお詫びをしていますので、今後、何か行うという予定はございません。

(質) 子どもたちへのお詫びをしてほしいといった要望内容だと思うのですが、それも県議会の常任委員会の中で果たしたというふうなご認識ですか。

(答) 私どもも、この起こった内容を非常に重くは捉えています。事案の程度を考えながら、次の事後の措置というか事後の扱いというのは考えていかなければいけないと思っております。今回の事案は、ある意味では公の事象になったものではないと思っております。校長が、子どもたちに対して直接、そういう人権侵害の言葉を発したわけでもなく、保護者に対して言ったわけでもなく、内部的な職員のやりとりの中で一定問題発言があったので、私どもとしてはそのまま放っておくと、今後教育をしていく上で、大きな問題になりかねないということで、個別の研修をやっているものでございます。我々の思いとしては、事前に食い止めたという部分もありまして、この案件で、これ以上の対応は行わなくていいのかなと考えております。

#### ○ドラマ「下剋上球児」放送終了について

(答) 一つだけ話題提供ということで、発表項目でもなかったもので報告しなかったのですが、先週の日曜日に「下剋上球児」というドラマが終了いたしまして、ちょっと関係者のコメントが届いていますので、少しだけお話をさせていただきます。校長のコメントですけれども、大変面白いドラマで、地域や生徒に勇気を与えることができた。津市白山町の地域おこしができ、地域おこしの機運が高まった。それから、教諭が免許を持っていないとか、あるいは地域の方が球場を寄付してくれるとか、現実にはありえないこともあったけれども、野球を純粋に好きな人にとっては楽しめる番組であったというコメントでございます。それから、学校の反応ですけれども、生徒の反応。ドラマを視聴している生徒が36.5%、ドラマに出演する生徒の態度の悪さや態度の影響を不安視する生徒もいた。だが、後半になるにつれ、特に何も言わなくなったということです。それから教員ですけれども、ドラマを楽しみにする人が多く、毎回楽しみにしている。地域の祭りなどの時期と重なっていたこともあり、地域との連携が増えた。一方で、実際の苦勞を知っていることもあり、ドラマはあっさりし過ぎてい

ると感じた人もいた。出張先や来客から話題に上げられることが増えたということです。あと、地域や保護者のご意見ですけれども、保護者はドラマを楽しみにしており、親が見るので子どもも見る家庭があった。生徒が地域と関わる頻度が増えた。地域おこしの機運が高まり、白山高校地域応援団ができたというようなことです。地域の方々はドラマを機に、地域おこしに意気込んでおられまして、この盛り上がりを継続していきたいと言われていました。学校としてもこれを機に、地域との連携をさらに深めていきたいと考えておられます。野球部は、ドラマを機に再び甲子園に行きたいという気持ちを持つようになっており、これまで以上に熱を帯びた練習を行うようになったと聞いております。今後とも、地域も盛り上がってしっかり地域おこしを頑張っていくということですので、また取材の方はそういう機会があれば、よろしく願いいたします。

以上、13時59分終了